

# チャリティ古本市@学園祭 支援金寄付先の紹介

## ① 走れ東北! 移動図書館プロジェクト

### ・基本情報

#### 1. 実施団体名

シャンティ国際ボランティア会

#### 2. 開催時間・活動地域

細かい時間は各仮設住宅により異なりますが基本的に平日を中心に1時間滞在します。地震による被害が甚大だった岩手、福島、宮城の3県で活動をしています。

(※岩手県での移動図書館は完了し、現在は陸前高田コミュニティ図書室での活動のみ

※2017年度6月ですべての活動は完了し、地元図書館に引き継ぐ予定)

#### 3. 貸出について

2週間に一度同じ仮設住宅を訪れますので、その時に借り、次回訪問時に返却することができます。一度に1人につき5冊まで借りることができます。

#### 4. 創設時期

2011年7月

#### 5. 蔵書数

岩手・福島・宮城の3県あわせて約8万冊



ひとりの、みんなの、  
読みたい気持ちを形に。



### ・支援先の震災による被害状況

東日本大震災発生時、地震によって多くの図書館で書架からの蔵書の落下、建物本体の亀裂、照明等の設備の落下が起きました。落下した蔵書が破損する、書架に蔵書を戻す作業に時間がかかる、本震災発生時は大きな被害がなかったが、発生後しばらくして棚が傾く、余震によって蔵書が書架から落下するということも発生しています。

6軒の図書館では津波による被害も受け、特に宮城県元吉郡南三陸町にある南三陸町図書館では、津波により館長が亡くなられ、建物自体が流失してしまった上(蔵書も全て流失)、地震による地盤沈下によって敷地内に立ち入ることさえ出来なくなってしまいました(現在は仮設図書館という形で再開しています)。現在、仮設団地にて公共図書館サービスを再開させた市町村もありますが、仮設団地からのアクセスが悪い等の問題があります。

### ・プロジェクト内容

このプロジェクトでは、仮設団地を訪問し、本の貸出・読書スペースの提供を行うことで、被災者の方々が気軽に図書館を利用できるようになっています。創設時期も2011年7月(岩手にて、宮城では2012年9月、福島では2012年10月に運行を開始)と、とても早い時期から被災地の支援を行っており、現在に至るまで支援を続けています。

このプロジェクトを行っているシャンティ国際ボランティア会は、図書館を読書の場としてだけでなく住民の交流の場、情報センター、保管庫とも考えていて、この移動図書館は読書スペースはもちろん、お茶やコーヒー等を提供したうえで、お茶飲みスペースを設けることで、被災者同士の集い・交流の場としての役割も担っています。東日本大震災のような大きな地震が発生し、多くの人々が心に深い傷を負った今こそ、本の感動させる力・安らぎを与える力が大切であり、そのために低下した図書館の機能をサポートし、被災者の方々が情報を得て、自由に交流できるようにすることが必要だと考えているそうです。

## ② 熊本地震 被災地の学校図書館支援

### ・基本情報

#### 1. 実施団体名

SLA 公益社団法人 全国学校図書館協議会

#### 2. 支援先

2016年の熊本地震によって被災した地域から、支援を希望する学校を募集

#### 3. 支援の大まかな内容

- ・図書・図書館用品の寄贈
- ・破損した書架や備品の購入に対する補助

#### 4. 支援時期

2016年冬からを予定



本が散乱した小学校の図書室で、片付けに追われる教諭ら＝熊本県南阿蘇村の南阿蘇西小学校（2016年04月20日）【時事通信社】

### ・支援先の震災による被害状況

全体的な図書館としての被害は地震による建物の損壊、蔵書の落下（くまもと森都心プラザ図書館では30万冊の落下）や破損、設備の落下等が発生している上、スプリンクラーからの漏水、水管の破損による水損も多く、そのところで発生しており、それにより蔵書にカビが発生するという事態も起こっています。発生してから現在までまだ5ヶ月ほどしか経っていないため、現在も多発している余震による被害や不安も大きいと考えられます。

### ・プロジェクト内容

支援希望のあった被災地の学校の被害状況を調査した上で、学校側の要望に沿った本の寄贈だけでなく、倒れた・倒れそうな書架や椅子・机、壊れた・壊れかけた本の修理や、使用できなくなった本や備品の廃棄、寄贈された本の整理、更には子供たちへの読み聞かせも行われる予定です。

なお、本の寄贈を募集する際は、受け取った学校が「寄贈された本が古い・汚れすぎている」ということで困らないように、誰にとっても不要な本を送ることは避けてほしいと呼びかけています。

プロジェクトの実行は冬に入ってからになると思われませんが、それでも地震の発生から1年以内であり、開館はしているものの、書架などの変形が起こっているところも多数あるので、多くの学校図書館を助けることができるでしょう。

（編集 図書委員・企画班班長 H2E 毛利）